

普及活動情勢報告（令和3年6月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

農福連携活動計画を検討 ～高知市農福連携研究会の開催



活動方法について協議

5月25日、普及所において「第1回高知市農福連携研究会（事務局：普及所）」を開催し、農業及び福祉関係機関、福祉サービス事業所から19名が参加しました（農業：7組織15名、福祉：6組織13名）。会では、これまでの活動の共有と今後の活動計画を検討しました。その結果、今後キュウリ生産者との連携に向け、現地ハウスで見学会を開催することが決定しました。

普及所は、今後も農福のマッチング事例を増やしていくよう研究会メンバーとともに活動を進めていきます。

農薬のローテーション散布とは？ ～JA高知市草花部会講習会～



講習会の様子

5月25日、JA高知市旭支所にて草花部会の講習会が開催され、生産者5名が参加しました。普及所からは、殺虫剤の薬剤抵抗性がつく仕組みや正しいローテーション散布について説明しました。生産者からは、「抵抗性がつく仕組みが理解できた」「RACコードを初めて知った」といった声が聞かれました。また、配付したRACコード表を見ながら、生産者同士で意見交換も行われました。

今後も、JA等と協力し、農薬の防除効果を維持するよう継続して支援していきます。

色白な新ショウガができました ～三里出荷場新ショウガ目慣らし会～



今年の新ショウガはいかが

6月2日、JA高知市三里園芸出荷場において新ショウガ目慣らし会が開催され、生産者10名が出席しました。出荷場職員20名も参加し、症状ごとの等級の決め方について活発な意見交換が行われました。生産者と出荷場職員全員で出荷規格を統一しようとする姿勢がみられ、産地の熱意が感じられました。

普及所からは、他産地の状況および褐色しみ病について最新の知見を報告しました。今まで病気として認識していなかった生産者が多く、収穫前の薬剤防除を見直したいなど声がありました。

普及所は、今後もJA等関係機関と連携し、新ショウガの生産安定に向けて支援していきます。

傾斜園でのドローン防除の実際を学ぶ ～ドローン農薬散布飛行講習会～



飛行するドローンを見守る参加者

6月6日、中山間の傾斜面におけるドローン防除技術向上を目的として、高知市土佐山高川地区のユズ園にて（一社）ドローン防除普及協会主催によるドローン農薬散布飛行講習会が開催され、協会員4社と地元生産者6名の参加がありました。普及所は実施ほ場・使用薬剤の選定および生産者への声かけを行いました。

参加した協会員のオペレーターからは、「傾斜面での散布作業の体験ができてよかった」「料金設定を樹数単位にすべきか面積単位にすべきか検討が必要」といった声が、また生産者からは「作業時間は動噴による散布より明らかに早い」「将来はドローンによる防除をとり入れたい」といった声が聞かれました。

普及所では、今後もドローンによるユズ防除の定着を図るための取り組みを継続して支援していきます。

新たな担い手確保に向けて ～指導農業士のもとでマッチング研修～



キュウリハウスで研修中

4月19日からキュウリで就農を希望している研修生1名が5名の指導農業士のもとで、マッチング研修を行いました。一週間毎、5カ所の指導農業士のキュウリハウスにて収穫作業や栽培管理等、キュウリの農業経営全般について学びました。農家からは、地域に馴染むことも就農の重要な要素であることを助言してもらいました。マッチング研修をしたことで、キュウリ就農の具体的なイメージにつながりました。

今後、高知農業改良普及所は長期研修先の農家選定、研修計画作成支援等、関係機関と連携しながら本格的な研修に向け支援を行っていきます。

6次産業化への支援 ～県版 HACCP 取得に向けて～



HACCP 話合いの様子

6月16日、JA高知市女性部鏡支部が、「冷凍イタドリ」の県版 HACCP 第2ステージ取得に向けて、今年度第1回目のチーム会を開催し、4名が出席しました。普及所から使用器具などの取扱い手順についての事例を示し、改善点や注意事項などを話し合いました。

事例と比較することで、不十分だった点が明らかとなり、器具の使い分けなどの改善に繋がりました。

今後も、関係機関とともに県版 HACCP の認定取得や新商品の開発、既存商品の改良など商品力の向上について支援を行っていきます。

環境制御技術アドバイザーによるサポート事業の活用
～シーズンを通しての振り返りと次作へ向けての検討～



アドバイザーは
オンラインで助言

JA 高知県春野キュウリ部会では環境制御技術アドバイザーによるサポート事業を2年間活用し、モデル農家の個別面談、現地検討会及び意見交換会を実施してきました。

6月15日には、モデル農家と関係者が集まり、シーズンを通しての振り返り会を実施しました。普及所は生育・環境データ等を準備し、アドバイザーからはポイントやさらなる改善点について助言がありました。モデル農家においては、栽培上の課題を明確にし、改善を繰り返し行うことで、前年比で120%と増収につながりました。

今後普及所では産地のレベルアップにつながるよう、モデル農家の取組みをキュウリ部会へも広げていきます。

強い樹づくりを目指して ～露地ピーマン現地検討会～



ほ場での意見交換の様子

6月2日、春野で露地ピーマンの現地検討会が開催され、生産者6名が参加しました。今年は、例年よりも梅雨入りが早かったことから、「強い樹づくり」をテーマに検討会が進みました。

普及所からは、定植～生育初期における管理の注意点について説明しました。生産者からは、樹の仕立て方や雑草の防除、施肥やかん水のタイミングなど様々な質問があり、活発な意見交換が行われました。

今後もJAと協力をしながら、巡回等を通じて支援を続けていきます。